

ごあいさつ

昨今の学術情報をめぐる状況は大きく変化しており、情報機器やコンテンツを局所的に限られた人たちで利用するのではなく、全国規模で安全・安心に共有する方法が必要となってきています。そのため、国立情報学研究所は基盤的ソフトウェア、コンテンツ、人材、あるいは研究グループなどを超高速ネットワーク上で共有するための基盤整備のために、最先端学術情報基盤(CSI : Cyber Science Infrastructure)事業を開始しました。CSI 事業では最先端学術基盤を整備するために、日本国内の大学や研究機関などと共同で、学術情報ネットワーク、ユーザ認証システムを基盤とするグリッドコンピューティング環境の構築や電子コンテンツの共有、仮想組織の構築などを行っています。名古屋大学でも情報連携基盤センターと附属図書館が CSI に参画し、それぞれ大学間連携のための全国大学共同電子認証基盤構築事業(UPKI : University Public Key Infrastructure)の推進、UPKI の成果によるアプリケーションの開発、および次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(Next-Generation Academic Information Infrastructure)の推進を行ってきました。情報連携基盤センターと附属図書館は約3年間にわたって、これらの事業を推進し、一定の成果をあげてきました。UPKI は本年度で終了し、名古屋大学附属図書館に委託されている次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業は来年度で終了することになりますが、今後ともこれらの事業での成果を発展させ、我が国の学術情報基盤の整備に貢献していきたいと思っております。

名古屋大学情報連携基盤センター長

阿草 清滋